

# 【過去問カルテ】

生徒一人一人に、  
受験校一つ一つに  
作成

個別指導会では受験日までに最低2回過去問を実施しその推移を詳細に分析するため「過去問カルテ」を作成します。1回目の実施後、入試問題の傾向に合わせ、「今後、学習を強化すべき単元」「身につけるべき思考力」、「新たに必要なものの見方」を踏まえ、授業を進めていきます。2回目の実施(1回目実施から最低3ヶ月の間隔をおきます。)により、今までの成果(得点①→得点②の点数UP)を確認し、さらなる問題点を発見、克服し、合格に向け入試日前日まで対策を続けます。

〇〇中学3年S君 数学過去問カルテ 平成25年度都立〇〇高校										本人換算内申 46点		1教科当たりの合格に必要な最低点 73点	
大問	枝問	出題範囲	正・不	配点	得点①	得点②	標準時間	使用時間	レベル	失点の原因・対策	実施日	解説日・担当者	
	問1	計算	○	5	5				A	少数を分数に直す、平方根を簡単にする。符号の処理、無理数の有理化、計算順、本人の計算の痕跡をたどるといづれもきちんと出来ているので特別な対応は必要なし	8/21	8/21	〇〇先生
1	問4	確率	×	5	0		13分00秒	10分37秒	B	樹形図を書けば正解したところをうろ覚えな公式を誤って使い失点してしまった。公式の意味を理解させ使い方を練習したが、本番では樹形図を使うようアドバイス	//	//	//
	問5	作図	×	5	0				B	円に接線を引く作図がわからず失点。接線の性質を確認し定理の証明をする。円に絡んだ作図問題を3題解けたことを確認。「作図は毎年頻出問」を本人に認識させる。	//	//	//
4	問1	空間図形 動点問題	○	6	6				B	正解したが、計算の工夫が出来ず時間がかかってしまったので、計算の工夫を指導。家庭学習でも「いかに楽に、早く計算するか」を常に考えるようアドバイス。	//	//	//
	問2		×	12	0		15分00秒	17分54秒	C	三角錐の体積と底面積より高さ(頂点から底面までの距離)を求めさせる典型的都立問題。今週の課題に決め、テキストの「三平方の定理と空間図形」の解き直しを宿題とした。	//	//	//
	問3		×	6	0				D	ハイレベルであり計算も複雑で正解は出にくい、今回第1回目の実施では他の簡単な問題の取りこぼしをなくす対応を優先し、この問題の攻略法は第2回実施時に行う。	//	未了	
合計欄					100	48		50分00秒	50分00秒	第1回実施 8/21 48	合格点との差 -25	第2回実施予定 12月	合格点との差
8/21 担当者コメント	過去の受験生合格データと比較し8月時点での得点としてはまずまずです。「8月に過去問にトライ＝中学全単元を終了した。」これだけでも他の生徒より有利な状況です。 都立入試の第1問は例年それほど難しい問題は有りませんので満点で通過しなければ合格は有りません。そのために時間をもう少しかけることをアドバイスしました。 第5問の(3)はほとんどの受験生が得点できない問題であり、この問題が解けないことが不合格へつながることはありません。他の簡単な問題ですべて得点できる学力がつけた時点(2回目実施予定12月)で指導することといたします。												